

重要課題 (マテリアリティ)	認識する課題		中長期のリスクと機会		インパクト マテリアリティ	ファイナンシャル マテリアリティ	具体的取り組み	対応する SDGs項目		
					影響度の度合い(大中小)					
コンポジットで 安心・安全・ 安定な製品を コンポジットで 新たな イノベーションを	"3安"と さらなる高みの ものづくり	安心・安全・安定した ものづくりの維持、 および生産性の さらなる向上	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客に対する納期遅延、加工中のムダによる温室効果ガス排出、廃棄物発生および資源の浪費</li> <li>原材料価格の高騰、為替の変動による利益の減少</li> <li>製品の欠陥による賠償負担</li> <li>市場価格の低下による売上/利益減少</li> </ul>	大		<ul style="list-style-type: none"> <li>取引価格の見直し。原価低減活動。品質向上活動の推進</li> <li>ISO各種認証の維持および向上</li> <li>サステナビリティに関する外部評価機関による評価</li> </ul>	 		
		機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>原価低減および生産性向上による利益の増加</li> </ul>	中						
	社会課題解決の ための 技術革新対応	ニーズの多様化、 自社固有技術の応用	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客から開発力がない企業と見なされ新規開発依頼が喪失</li> <li>ニーズの変化による既存製品の売上縮小</li> </ul>	大		<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代製品の開発および量産化。競合しない製品の開発</li> <li>専門プロジェクトによる開発および販促活動</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーの効率利用、温室効果ガス排出量削減、廃棄物量削減、その他環境社会へのプラスの影響</li> </ul>	大					
	知的財産	知的財産の活用と管理	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>出願した特許の他社特許抵触による訴訟問題</li> </ul>	中		<ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産説明会および定期的相談会の実施</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>知財マネジメント強化による新製品開発の推進</li> </ul>	大					
DX、SX	各種生産性の向上	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策費用の増大、従業員の業務負担増による健康被害</li> </ul>	大		<ul style="list-style-type: none"> <li>DX推進室およびサステナビリティ戦略委員会による活動強化</li> </ul>				
		機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーの効率利用、温室効果ガス排出量削減、廃棄物量削減、機能性の向上、納期短縮など</li> <li>生産効率向上や機能性向上による受注機会の拡大</li> </ul>	小	大					
環境改善で 新たな 価値創造を	気候変動	CO <sub>2</sub> 排出量の削減、 カーボンニュートラル の実現	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料の産出、輸送、当社での加工、配送、工場、事務所の冷暖房、移動、製品使用後の廃棄などの過程での温室効果ガスの排出</li> <li>移行リスクや販売規制による製品需要の低下からの売上減少</li> <li>規制対応のための開発費増、規制対応遅延による信頼低下</li> <li>自然災害の激甚化など物理リスク増への対応のための費用負担増</li> </ul>	大		<ul style="list-style-type: none"> <li>電力の「見える化」の推進、省エネ設備の検討</li> </ul>	      		
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減や災害対策のための開発要請の増加</li> </ul>	大	大				
	環境	廃棄物削減	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社での加工過程での廃棄物発生および処理に伴う温室効果ガスの排出および環境汚染</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷物質の使用削減活動の継続</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境規制解消のための開発要請の増加</li> </ul>	大	大				
		化学物質管理	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷物質の外部市場への広がり、およびそれに伴う環境汚染、健康被害</li> <li>環境負荷物質による従業員の健康被害</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷物質関連情報の適時更新</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境規制解消のための開発要請の増加</li> </ul>	大	中				
	生物多様性	生物多様性の保全	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガスの排出、環境汚染</li> <li>消極的な企業と見なされ、新規取引の停止および既存取引の縮小</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発部門主導による活動実施、 各種植樹活動およびゴミ拾い活動の実施</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなビジネスチャンスの創出</li> </ul>	大	中				
	人と社会に やさしい組織を	ダイバーシティ 人権 人材育成	多様な人材の 確保と活用	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正人材不足および労働災害の増加で生産効率が低下、部品（製品）の供給停滞</li> <li>多様性の不足による事業運営の画一化</li> </ul>	大			<ul style="list-style-type: none"> <li>エンゲージメント向上に対する取り組み強化</li> <li>女性活躍に関する目標立案と実施</li> <li>障がい者雇用の積極化</li> <li>社内教育の充実、即戦力中途採用</li> <li>計画的な採用、業務マニュアル化、多能工化の推進</li> <li>労働安全衛生活動の維持向上（安全パトロールなど）</li> </ul>	   
				機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規開発リソース不足、グローバル人材不足、業務の属人化、メンタルヘルス不調</li> <li>多様な働き方の実現による従業員モチベーション向上と優秀な人材の定着</li> <li>労働災害減少による従業員の安全向上、雇用維持</li> </ul>	大	大			
バリューチェーン			リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリューチェーン全体に対する各サプライヤーの人権侵害および調達不能による部品（製品）の供給停滞</li> <li>新規および既存取引の停止</li> <li>あらゆるステークホルダーからの信用失墜</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>紛争鉱物調査の積極活用</li> <li>廃倉コンポジットグループ調達方針およびCSR調達方針の見直し</li> </ul>			
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>公正公平な取引から生まれる信頼性の向上</li> </ul>	大	大				
コーポレート・ ガバナンス 強化を		ガバナンスと リスク管理の 強化	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンス強化のさらなる対応要請、情報開示の不徹底による信用低下、株価下落</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会および経営会議のアジェンダの再設定</li> <li>「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」への移行</li> <li>決算説明会および個別面談の機会を増やして多数の意見を抽出し、今後の会社運営へ反映</li> </ul>	  		
			機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応や開示の強化による企業価値の向上</li> </ul>	大	大				
	法令順守の徹底化と リスク管理の強化	リスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令順守の不徹底および脆弱なリスク管理により、全てのステークホルダーに対する信用失墜</li> </ul>	大	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス推進委員会活動、コンプライアンス研修の強化</li> <li>FUJIKURA COMPOSITES 行動規範策定と周知徹底</li> <li>リスクマネジメント委員会を中心にリスク洗い出しの見直し実施</li> </ul>				
		機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCP強化対応による一層の信頼の向上（企業価値の向上）</li> </ul>	大	大					

備考) 影響度の度合い ・インパクトマテリアリティ【社会環境への影響(自社のバリューチェーンのどこでどのような影響が生じているか)】: 大(社会に大きな影響を与える) > 中 > 小(社会に軽微な影響を与える)  
・ファイナンシャルマテリアリティ【社会環境の変化によって自社が受ける影響】: 大(会社経営に大きな影響を与える) > 中 > 小(財務報告に影響を与える)